

1991年 大会記録

国際

◇台湾女子国際大会（3月6～7日、台湾・台北）

▼44kg 級 吉村祥子（成城大）＝優勝、▼50kg 級 福原邦子（京樽）＝2位、▼53kg 級 木村こず恵（東洋大倶楽部）＝優勝、▼57kg 級 小滝初江（朝日住建日体クラブ）＝2位、▼61kg 級 星川君枝（ユナイテッドスティール）＝優勝、▼65kg 級 飯島晶子（京樽）＝優勝、▼70kg 級 浦野弥生（日体大）＝優勝、▼75kg 級 船越光子（栃木・壬生高）＝2位

◇ヤリギン国際大会＝男子フリースタイル（1月、ソ連・クラスノヤルスク）

▼52kg 級 笹山秀雄（自衛隊）＝二失、▼57kg 級 花田秀実（自衛隊）＝3位、▼62kg 級 吉田実（自衛隊）＝二失

◇トビリシ国際大会＝男子フリースタイル（1月、ソ連・トビリシ）

▼52kg 級 笹山秀雄（自衛隊）＝四棄、▼57kg 級 花田秀実（自衛隊）＝三失、▼62kg 級 吉田実（自衛隊）＝二失

◇ポッディブニー国際大会＝男子グレコローマン（1月、ソ連・ロストフ）

▼48kg 級 蝦名康一（自衛隊）＝3敗、▼52kg 級 西見健吉（自衛隊）＝2位、▼62kg 級 渡口彦康（自衛隊）＝3位

◇アジア選手権＝男子フリースタイル（4月17～19日、インド・ニューデリー）

▼48kg 級 丸山祐司（自衛隊）＝一棄、▼52kg 級 野竹充孝（自衛隊）＝6位、▼57kg 級 金浜良（ユニマツト）＝3位、▼62kg 級 吉田実（自衛隊）＝4位、▼68kg 級 五位塚悟（山梨・山梨農林高教）＝4位、▼74kg 級 角崎朋博（山形・東根工高教）＝3位、▼82kg 級 石沢常光（新日本プロレス職）＝4位、▼90kg 級＝派遣なし、▼100kg 級 浅沼俊幸（自衛隊）＝5位、▼130kg 級 小幡弘之（警視庁）＝5位

◇アジア選手権＝男子グレコローマン（5月16～18日、イラン・テヘラン）

▼48kg 級 佐々木昌常（自衛隊）＝4位、▼52kg 級 中森昭平（警視庁）＝2位、▼57kg 級 渡口彦康（自衛隊）＝4位、▼62kg 級 長内清一（盛岡大短大教）＝5位、▼68kg 級 三宅靖志（東海商船）＝3位、▼74kg 級 湯浅邦茂（山梨・甲府養護学教）＝3位、▼82kg 級 永田裕志（日体大研）＝5位、▼90kg 級 東出徹（奈良・高取高）＝3位、

▼100kg 級 野々村孝 (香川・スポーツ財団) = 2 位、▼130kg 級 出口一也 (和歌山県立体育館) = 4 位

◇世界エスポアール選手権 (7月12～19日、チェコ・プレビザ)

《男子フリースタイル》▼48kg 級 山口讓司 (国士舘大) = 9 位、▼52kg 級 窪木浩 (明大) = 2 位、▼57kg 級 石島勇次 (山梨学院大) = 5 位、▼62kg 級 市口勇志 (日大) = 9 位、▼68kg 級 小柴健二 (日体大) = 4 位、▼74kg 級 荻田剛志 (早大) = 9 位、▼82kg 級 小野瀬哲也 (山梨学院大) = 10 位、▼90kg 級 石庭新五 (アイシン精機) = 10 位、▼100kg 級 千綿辰也 (日体大) = 10 位、▼130kg 級 茂野充宏 (国士舘大) = 二失

《男子グレコローマン》▼48kg 級 森下浩 (日体大) = 三失、▼52kg 級 田中貴範 (専大) = 8 位、▼57kg 級 尾白賢治 (日体大) = 4 位、▼62kg 級 林雄一 (日体大) = 10 位、▼68kg 級 長和徹 (日体大) = 三失、▼74kg 級 片山貴光 (日体大) = 7 位、▼82kg 級 戸部徹 (日体大) = 二失、▼90kg 級 吉田幸司 (日体大) = 二失、▼100kg 級 伊藤忍 (中大) = 二失、▼130kg 級 中川誠一 (日体大) = 4 位

◇カナダカップ=男子フリースタイル (6月27～28日、カナダ)

▼48kg 級 若松正 (東洋大) = 優勝、▼52kg 級 藤村和人 (日大) = 5 位、山口讓司 (国士舘大) = 4 位、▼57kg 級 笹井朋人 (日大) = 三失、入江格 (国士舘大) = 4 位、▼62kg 級 渡口彦春 (国士舘大) = 二失、中石義洋 (日体大) = 三失、▼68kg 級 吉本収 (国士舘大) = 五失、太田拓弥 (日体大) = 四失、▼74kg 級 荻田剛志 (早大) = 5 位、▼82kg 級 太田浩史 (青山学院大) = 二失、▼100kg 級 梅田誠幸 (東海大) = 二失、▼130kg 級 高橋則行 (東洋大) = 5 位

◇世界カデット選手権 (7月、カナダ・アルマ)

《男子フリースタイル》▼40kg 級 永野佑二 (大阪・西山田中) = 7 位、▼43kg 級 川原一平 (愛媛・今治西中) = 9 位、▼47kg 級 山本徳郁 (神奈川・桐蔭中) = 6 位、▼51kg 級 岡田英雅 (群馬・前橋一中) = 予選敗退、▼60kg 級 水井雅史 (東京・京北中) = 8 位、▼65kg 級 染谷陽介 (千葉・木間ヶ瀬中) = 8 位、▼70kg 級 青木拓哉 (青森・八戸三) = 10 位、▼76kg 級 米沢重隆 (・光ヶ丘) = 予選敗退、▼83kg 級 今村雄介 (群馬・城西) = 8 位、▼95kg 級 高倉洋一郎 (・尾島) = 9 位

《男子グレコローマン》▼47kg 級 山口孝 (茨城・愛宕中) = 9 位、▼51kg 級 重茂修平 (青森・八戸二中) = 予選敗退、▼55kg 級 鈴木明 (千葉・野田一)、▼70kg 級 小野間功一 (茨城・愛宕中) = 7 位、▼76kg 級 庄司直矢 (・大島) = 7 位

◇北京国際大会（7月17～18日、中国・北京）

《男子フリースタイル》▼48kg級 福留清美（アイシン精機）＝三失、▼52kg級 清水一成（山形・上山農高教）＝3位、▼57kg級 花田秀実（自衛隊）＝5位、▼68kg級 外屋敷剛（自衛隊）＝4位、▼74kg級 佐川正吉（自衛隊）＝二失、▼82kg級 伊藤敦（京都府体協）＝3位、▼90kg級 岡部政浩（大塚ハケKK）＝4位、▼100kg級 安田紀久雄（山梨・韮崎工高教）＝4位、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）＝3位

《男子グレコローマン》▼48kg級 山本哲也（プリマハム）＝3位、▼52kg級 内浩二（自衛隊）＝4位、▼57kg級 福崎道大（自衛隊）＝4位、▼62kg級 出口泰三（和歌山県教委）＝2位、▼68kg級 麦島誠二（自衛隊）＝4位、▼90kg級 山口孝二（自衛隊金沢）＝3位、▼100kg級 福辺雅彦（奈良・御所高教）＝4位、▼130kg級 奈良英則（警視庁）＝4位

◇世界ジュニア選手権＝男子グレコローマン（7月、スペイン・バルセロナ）

▼46kg級 田中紀好（徳島・貞光工高）＝二失、▼50kg級 狩野達治（群馬・関東学園高）＝9位、▼54kg級 栗田弘明（栃木・足利工大付高）＝二失、▼58kg級 椎野慎祐（新潟・巻農）＝二失、▼63kg級 細貝健一（新潟・巻農高）＝二失、▼68kg級 横山雅信（栃木・足利工大付）＝二失、▼74kg級 松島大輔（京都・宇治）＝二失、▼81kg級 高木章夫（日体大）＝8位、▼88kg級 島谷正樹（青森・野辺地工高）＝二失、▼115kg級 室谷正憲（和歌山・和歌山東）＝10位

※フリースタイルは実施せず

◇世界選手権＝女子（8月24～25日、東京・代々木競技場第2体育館）

▼44kg級 吉村祥子（スポーツ東急）＝3位、▼47kg級 山本美憂（朝日住建ク）＝優勝、▼50kg級 東陽子（朝日住建）＝3位、▼53kg級 遠藤美子（東洋大）＝2位、▼57kg級 川崎明美（自衛隊）＝8位、▼61kg級 星川君枝（ユナイテッドスティール）＝2位、▼65kg級 飯島晶子（京樽）＝優勝、▼70kg級 浦野弥生（京樽）＝優勝、▼75kg級 船越光子（栃木・壬生高）＝4位

◇世界選手権（9月27日～10月3日、ブルガリア・バルナ）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 平野孝喜（京樽）＝二失、▼52kg級 佐藤満（日本体育会）＝5位、▼57kg級 金浜良（ユニマット）＝9位、▼62kg級 安達巧（日体大助）＝7位、▼68kg級 赤石光生（ユニマット）＝8位、▼74kg級 角崎朋博（山形・東根工高教）＝8位、▼82kg級 石沢常光（新日プロレス職）＝三失、▼90kg級 赤石明雄（長田玉夫商会）＝二失、▼100kg級 中西学（新日プロレス職）＝10位、

▼130kg 級 小幡弘之（警視庁）＝三失

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 大橋正教（ユニマツト）＝7位、▼52kg 級 中森昭平（警視庁）、▼57kg 級 藤岡道三（奈良県体協）＝6位、▼62kg 級 西口茂樹（日体大助）＝5位、▼68kg 級 森巧（自衛隊）＝四失、▼74kg 級 伊藤広道（自衛隊）＝二失、▼82kg 級 永田裕志（日体大研）＝二失、▼90kg 級 森山泰年（自衛隊）＝9位、▼100kg 級 近藤務（自衛隊）＝二失、▼130kg 級 奈良英則（警視庁）＝二失

◇サンキストカップ＝女子（11月9～10日、米国・フェニックス）

▼44kg 級 村田智子（東洋大倶楽部）＝2位、▼47kg 級 上林美穂（愛知・桜丘高）＝2位、▼50kg 級 山本美憂（朝日住建クラブ）＝優勝、▼53kg 級 木村こず恵（東洋大倶楽部）＝3位、▼57kg 級 野上代生子（代々木クラブ）＝4位、▼61kg 級 清水真理子（畑村クラブ）＝優勝

◇クランスマン国際大会＝女子（11月14～17日、カナダ・バンクーバー）

▼44kg 級 村田智子（東洋大倶楽部）＝2位、▼47kg 級 上林美穂（愛知・桜丘高）＝優勝、▼50kg 級 山本美憂（朝日住建クラブ）＝優勝、▼53kg 級 木村こず恵（東洋大倶楽部）＝3位、▼57kg 級 野上代生子（代々木クラブ）＝4位、▼61kg 級 清水真理子（畑村クラブ）＝優勝

国内

◇アジア選手権代表選考会（3月18～20日、東京・代々木競技場第2体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg 級 平野孝喜（山梨学院大）、▼52kg 級 佐藤満（日体大助）、▼57kg 級 金浜良（ユナイテッドスティール）、▼62kg 級 安達巧（日体大助）、▼68kg 級 赤石光生（ユナイテッドスティール）、▼74kg 級 角崎朋博（山形・東根工高教）、▼82kg 級 石沢常光（新日本プロレス職）、▼90kg 級 赤石明雄（長田玉夫商会）、▼100kg 級 浅沼俊幸（自衛隊）、▼130kg 級 小幡弘之（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 蝦名康一（自衛隊）、▼52kg 級 中森昭平（警視庁）、▼57kg 級 渡口彦康（自衛隊）、▼62kg 級 西口茂樹（日体大助）、▼68kg 級 三宅靖志（東海商船）、▼74kg 級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg 級 永田裕志（日体大）、▼90kg 級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg 級 野々村孝（山梨学院大）、▼130kg 級 高橋則行（東洋大）

◇全国高校選抜大会（3月29～30日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（4年連続4回目）、[2] 群馬・西邑楽、[3] 秋田・秋田商、静岡・修善寺工

《個人戦優勝者》▼46kg級 後藤照行（茨城・霞ヶ浦）、▼50kg級 石田隆（茨城・霞ヶ浦）、▼54kg級 横瀬二郎（京都・宇治）、▼58kg級 杉山貴光（静岡・清水工）、▼63kg級 天谷満博（茨城・土浦日大）、▼68kg級 井筒崇裕（茨城・霞ヶ浦）、▼74kg級 川合達夫（群馬・西邑楽）、▼115kg級 ルイス・バレラ（宮城・仙台育英）

◇全日本寝技選手権（3月31日、東京・スポーツ会館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 丸山祐司（自衛隊）、▼52kg級 藤村和人（日大）、▼57kg級 花田秀実（自衛隊）、▼62kg級 吉田実（自衛隊）、▼68kg級 五位塚悟（山梨・山梨農林高教）、▼74kg級 佐川正吉（自衛隊）、▼82kg級 和久井始（自衛隊）、▼90kg級 本田大（自衛隊）、▼100kg級 浅沼俊幸（自衛隊）、▼130kg級 本田多聞（自衛隊）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 佐々木昌常（自衛隊）、▼52kg級 内浩二（自衛隊）、▼57kg級 西見健吉（自衛隊）、▼62kg級 元木康年（自衛隊）、▼68kg級 大久保康裕（自衛隊）、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg級 田崎光之（自衛隊）、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg級=出場なし、▼130kg級 神子沢健一（自衛隊）

《女子優勝者》▼44kg級 吉村祥子（成城クラブ）、▼47kg級 田中真由美（成城クラブ）、▼50kg級 山本美憂（朝日住建日体クラブ）、▼53kg級 東陽子（朝日住建日体クラブ）、▼57kg級 木村こず恵（東洋大クラブ）、▼61kg級 星川君枝（ユナイテッドスティーラ）、▼65kg級 飯島晶子（京樽）、▼70kg級 浦野弥生（京樽）、▼75kg級 船越光子（栃木・壬生高）

◇全日本エスポアール選手権（4月25～26日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 山口譲司（国士舘大）、▼52kg級 窪木浩（明大）、▼57kg級 石島勇次（山梨学院大）、▼62kg級 市口勇志（日大）、▼68kg級 小柴健二（日体大）、▼74kg級 荻田剛志（早大）、▼82kg級 小野瀬哲也（山梨学院大）、▼90kg級 石庭新五（アイシン精機）、▼100kg級 千綿辰也（日体大）、▼130kg級 茂野充宏（国士舘大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 森下浩（日体大）、▼52kg級 田中貴範（専大）、▼57kg級 尾白賢治（日体大）、▼62kg級 林雄一（日体大）、▼68kg級 長和

徹（日体大）、▼74kg 級 片山貴光（日体大）、▼82kg 級 戸部徹（日体大）、▼90kg 級 吉田幸司（日体大）、▼100kg 級 伊藤忍（中大）、▼130kg 級 中川誠一（日体大）

◇全日本女子選手権（5月4日、東京・代々木第二体育館）

《優勝者》▼44kg 級 村田智子（東洋大倶楽部）、▼47kg 級 山本美憂（朝日住建ク）、▼50kg 級 木村こず恵（東洋大倶楽部）、▼53kg 級 川崎明美（自衛隊）、▼57kg 級 坂本涼子（リプレ中京女大）、▼61kg 級 星川君枝（ユナイテッドスティール）、▼65kg 級 飯島晶子（京樽）、▼70kg 級 浦野弥生（京樽）、▼75kg 級 船越光子（栃木・壬生高）、▼75kg 以上級 上野弘子（盛岡大）

◇全日本ジュニア選手権=男子グレコローマン（5月4～5日、群馬・館林城沼体育館）

▼46kg 級 田中紀好（徳島・貞光工高）、▼50kg 級 狩野達治（群馬・関東学園高）、▼54kg 級 栗田弘明（栃木・足利工大付高）、▼58kg 級 大川卓治（群馬・西邑楽高）、▼63kg 級 細貝健一（新潟・巻農高）、▼68kg 級 横山雅信（栃木・足利工大付）、▼74kg 級 川合達夫（群馬・西邑楽）、▼81kg 級 高木章夫（日体大）、▼88kg 級 島谷正樹（青森・野辺地工高）、▼115kg 級 室谷正憲（和歌山・和歌山東）

※グレコローマンのみ

◇東日本学生リーグ戦（5月14～17日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 日体大（13年連続15度目）、[2] 国士大、[3] 日大、[4] 中大、[5] 大東大、[6] 東洋大、[7] 早大、[8] 山梨学院大

◇全日本社会人選手権（5月18～19日、埼玉・朝霞市総合体育館）

《団体戦優勝チーム》▼実業団 ユナイテッドスティールA、▼クラブ 警視庁A

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg 級 福留清美（アイシン精機）、▼52kg 級 清水一成（山形ク）、▼57kg 級 花田秀実（自衛隊）、▼62kg 級 奥山恵二（山形ク）、▼68kg 級 外屋敷剛（自衛隊）、▼74kg 級 佐川正吉（自衛隊）、▼82kg 級 伊藤敦（京都ク）、▼90kg 級 岡部政浩（東洋大ク）、▼100kg 級 安田紀久雄（山梨ク）、▼130kg 級 小幡弘之（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 山本晋也（北海道協会）、▼52kg 級 内浩二（自衛隊）、▼57kg 級 福崎道大（自衛隊）、▼62kg 級 出口泰三（和歌山県協会）、▼68kg 級 麦島誠二（自衛隊）、▼74kg 級 植村久弥（三重・鳥羽高教）、▼82kg 級 向井孝博（八田接骨院）、▼90kg 級 山口孝二（自衛隊）、▼100kg 級 福辺雅彦（奈良ク）、

▼130kg 級 奈良英則（警視庁）

◇西日本学生春季リーグ戦（5月25～26日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 福岡大（2季連続15度目）、[2] 近大、[3] 同志社大、[4] 徳山大、
[5] 桃山学院大、[6] 関大

◇東日本学生春季新人戦（6月20～22日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg 級 工藤博（山梨学院大）、▼52kg 級 飯村善明（大東大）、▼57kg 級 伊藤弘之（専大）、▼62kg 級 和田貴広（国士舘大）、▼68kg 級 山方政人（日体大）、▼74kg 級 宮本健二（日体大）、▼82kg 級 小野瀬哲也（山梨学院大）、▼90kg 級 権瓶広光（専大）、▼100kg 級 和田敏行（日体大）、▼130kg 級 中川誠一（日体大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 佐伯豊（日大）、▼52kg 級 田中貴範（専大）、▼57kg 級 西島隆（日体大）、▼62kg 級 坂上桂一（日体大）、▼68kg 級 長和徹（日体大）、▼74kg 級 宮本健二（日体大）、▼82kg 級 和田敏行（日体大）、▼90kg 級 横山秀和（日体大）、▼100kg 級 戸部徹（日体大）、▼130kg 級 高柳雄志（中大）

◇全日本選手権（6月20～22日、東京・代々木競技場第2体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg 級 平野孝喜（京樽）、▼52kg 級 佐藤満（日本体育会）、▼57kg 級 奥山恵二（山形・山形南高教）、▼62kg 級 藤田隆和（国士大助）、▼68kg 級 赤石光生（ユニマツト）、▼74kg 級 原喜彦（新潟・新潟北高教）、▼82kg 級 石沢常光（新日プロレス職）、▼90kg 級 赤石明雄（長田玉夫商会）、▼100kg 級 中西学（新日プロレス職）、▼130kg 級 小幡弘之（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 大橋正教（ユニマツト）、▼52kg 級 西見健吉（自衛隊）、▼57kg 級 藤岡道三（奈良県体協）、▼62kg 級 西口茂樹（日体大助）、▼68kg 級 森巧（自衛隊）、▼74kg 級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg 級 屋比久保（沖縄・北中城高教）、▼90kg 級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg 級 近藤務（自衛隊）、▼130kg 級 奈良英則（警視庁）

◇西日本学生新人戦（6月29～30日、大阪・堺市初芝体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg 級 広瀬和彦（福岡大）、▼52kg 級 岡本満教（福岡大）、▼57kg 級 阪本吉高（桃山学院大）、▼62kg 級 中野英樹（福岡大）、▼68kg 級 松原弘和（福岡大）、▼74kg 級 馬場博隆（福岡大）、▼82kg 級 奥田真二（同志社大）、▼90kg 級 三村勝彦（福岡大）、▼130kg 級 元平順也（近大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 福田正樹（福岡大）、▼52kg級 神吉真吾（桃山学院大）、▼57kg級 阪本吉高（桃山学院大）、▼62kg級 中島泰生（桃山学院大）、▼68kg級 松原弘和（福岡大）、▼74kg級 奥田真二（同志社大）、▼82kg級 正岡勇人（福岡大）、▼90kg級 三村勝彦（福岡大）、▼130kg級 元平順也（近大）

◇世界選手権代表最終選考会（7月11～12日、東京・代々木競技場第2体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 山下忍（香川県スポーツ振興財団）、▼52kg級 森進一（東洋大）、▼57kg級 金浜良（ユニマツト）、▼62kg級 栄和人（京樽）、▼68kg級 赤石光生（ユニマツト）、▼74kg級 角崎朋博（山形・東根工高教）、▼82kg級 石沢常光（新日本プロレス職）、▼90kg級 赤石明雄（長田玉夫商会）、▼100kg級 中西学（新日本プロレス職）、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 佐々木昌常（自衛隊）、▼52kg級 中森昭平（警視庁）、▼57kg級 藤岡道三（奈良県体協）、▼62kg級 大城利幸（沖縄県協会）、▼68kg級 森巧（自衛隊）、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg級 永田裕志（日体大研）、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg級 近藤務（自衛隊）、▼130kg級 奈良英則（警視庁）

◇インターハイ（8月2～5日、静岡・焼津市体育館）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（2年連続4度目）（2年連続5度目）、[2] 群馬・西邑楽、[3] 静岡・修善寺工、秋田・秋田商

《個人戦優勝者》▼46kg級 本田原明（鹿児島・鹿児島商工）、▼50kg級 勝目力也（静岡・沼津学園）、▼54kg級 木沢美幸（茨城・霞ヶ浦）、▼58kg級 杉山貴光（静岡・清水工）、▼63kg級 相磯武仁（静岡・沼津学園）、▼68kg級 山下哲生（和歌山・南部）、▼74kg級 木村洋介（北海道・北海）、▼115kg級 滝口徹（山形・東根工）

◇全国高校生グレコローマン選手権（8月16～18日、大阪・金岡公園体育館）

《優勝者》▼46kg級 中村吉元（三重・鳥羽）、▼50kg級 永井将紀（茨城・霞ヶ浦）、▼54kg級 横瀬二郎（京都・宇治）、▼58kg級 越智雅史（愛媛・今治西）、▼63kg級 天谷満博（茨城・土浦日大）、▼68kg級 長谷川博（茨城・土浦日大）、▼74kg級 亀井忠洋（愛知・星城）、▼81kg級 小浦宏之（和歌山・和歌山東）、▼87kg級 鶴岡利明（香川・多度津工）、▼115kg級 瀬川浩寿（茨城・霞ヶ浦）

◇全日本学生選手権（9月13～16日、群馬・草津総合体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 若松正（東洋大）、▼52kg級 藤村和人（日大）、▼57kg級 入江格（国士舘大）、▼62kg級 中石義洋（日体大）、▼68kg級 太田拓弥（日体大）、▼74kg級 平塚洋充（日大）、▼82kg級 笹原洋一郎（日体大）、▼90kg級 藤田和之（日大）、▼100kg級 小玉康二（国士舘大）、▼130kg級 浜上稔（日体大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 森下浩（日体大）、▼52kg級 朝比奈巖（日体大）、▼57kg級 深水真司（日体大）、▼62kg級 栗本秀樹（日体大）、▼68kg級 田橋治（日体大）、▼74kg級 塩川和仁（日体大）、▼82kg級 太田浩史（青山学院大）、▼90kg級 岩渕利則（国士舘大）、▼100kg級 梅田誠幸（東海大）、▼130kg級 浜上稔（日体大）

◇全日本学生王座決定戦（9月24～25日、東京・駒沢体育館）=団体戦の勝ち点方式
《順位》[1] 日体大（2年連続14度目）、[2] 国士舘大、[3] 日大

◇西日本学生選手権（10月4～6日、大阪・堺市金岡公園体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 池田徹（福岡大）、▼52kg級 西村聡（福岡大）、▼57kg級 西田月巳（福岡大）、▼62kg級 中野英樹（福岡大）、▼68kg級 高田和拓（徳山大）、▼74kg級 奥田真二（同志社大）、▼82kg級 辻嘉一（福岡大）、▼90kg級 三村勝彦（福岡大）、▼130kg級 野崎賢治（近大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 池田徹（福岡大）、▼52kg級 西村聡（福岡大）、▼57kg級 中城宏樹（同志社大）、▼62kg級 石山直樹（同志社大）、▼68kg級 高田和拓（徳山大）、▼74kg級 榎本晴俊（福岡大）、▼82kg級 坂本直生（福岡大）、▼90kg級 三村勝彦（福岡大）、▼130kg級 野崎賢治（近大）

◇国体（10月13～16日、石川・志賀町総合体育館）

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg級 若松正（鹿児島・東洋大）、▼52kg級 笹山秀雄（埼玉・自衛隊）、▼57kg級 佐々木一郎（香川・県スポーツ振興財団）、▼62kg級 奥山恵二（山形・山形南高教）、▼68kg級 小柴健二（群馬・日体大）、▼74kg級 原喜彦（新潟・新潟北高教）、▼82kg級 伊藤敦（京都・府体協）、▼90kg級 赤石明雄（山梨・長田玉夫商会）、▼100kg級 水橋徹（千葉・三田中教）、▼130kg級 小幡弘之（東京・警視庁）

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg級 山本哲也（北海道・プリマハム）、▼52kg級 池崎友和（石川・金沢自衛隊）、▼57kg級 中森昭平（東京・警視庁）、▼62kg級

谷山康隆（鹿児島・国士大）、▼68kg 級 大久保康裕（埼玉・自衛隊）、▼74kg 級 湯浅邦茂（山梨・甲府養護学教）、▼82kg 級 向井孝博（石川・八田接骨院）、▼90kg 級 山口孝二（石川・金沢自衛隊）、▼100kg 級 野々村孝（香川・スポーツ財団）、▼130kg 級 鈴木賢一（千葉・読売千葉広告社）

《少年フリースタイル優勝者》▼46kg 級 千葉仁（神奈川・向上）、▼50kg 級 石田隆（茨城・霞ヶ浦）、▼54kg 級 木沢美幸（茨城・霞ヶ浦）、▼58kg 級 杉山貴光（静岡・清水工）、▼63kg 級 天谷満博（茨城・土浦日大）、▼68kg 級 小泉文人（千葉・八千代松陰）、▼74kg 級 伊藤学（秋田・秋田経法大付）、▼81kg 級 高橋慎弥（群馬・西邑楽）、▼88kg 級 小沢竜二（愛知・星城）、▼115kg 級 滝口徹（山形・東根工）

《少年グレコローマン優勝者》▼46kg 級 中村吉元（三重・鳥羽）、▼50kg 級 狩野達治（群馬・関東学園）、▼54kg 級 丹康浩（静岡・焼津中央）、▼58kg 級 大川卓治（群馬・西邑楽）、▼63kg 級 細貝健一（新潟・巻農）、▼68kg 級 松永文悟（石川・星稜）、▼74kg 級 木村洋介（北海道・北海）、▼81kg 級 小浦宏之（和歌山・和歌山東）、▼88kg 級 鶴岡利明（香川・多度津工）、▼115kg 級 篠崎正二（茨城・霞ヶ浦）

◇全日本大学選手権（11月3～4日、山形・山形商高）

《優勝者》▼48kg 級 若松正（東洋大）、▼52kg 級 窪木浩（明大）、▼57kg 級 小倉偉延（専大）、▼62kg 級 中石義洋（日体大）、▼68kg 級 勝龍三郎（日体大）、▼74kg 級 平塚洋充（日大）、▼82kg 級 笹原洋一郎（日体大）、▼90kg 級 藤田和之（日大）、▼100kg 級 小玉康二（国士舘大）、▼130kg 級 茂野充宏（国士舘大）

《大学対抗得点》[1] 国士舘大（8年ぶり3度目）、[2] 日体大、[3] 日大

◇全国社会人オープン選手権（11月9～10日、神奈川・横浜消防訓練センター）

《男子フリースタイル》▼48kg 級 岩坂香治（アイシン精機）、▼52kg 級 丹治尚弘（愛隣会）、▼57kg 級 藤谷務（東洋大倶楽部）、▼62kg 級 松田高行（自衛隊）、▼68kg 級 藤田隆和（国士舘大助）、▼74kg 級 横山興道（自衛隊）、▼82kg 級 岸本茂範（日立T.O.クラブ）、▼90kg 級 本田大（自衛隊）、▼100kg 級 野々村孝（香川県協会）、▼130kg 級 鈴木賢一（千葉県協会）

《男子グレコローマン》▼48kg 級 大城正一（東洋紙業）、▼52kg 級 内浩二（自衛隊）、▼57kg 級 福崎道大（自衛隊）、▼62kg 級 元木康年（自衛隊）、▼68kg 級 木村好男（警視庁）、▼74kg 級 谷口茂之（警視庁）、▼82kg 級 渡部秀隆（自衛隊）、▼90kg 級 木下英規（自衛隊）、▼100kg 級 野々村孝（香川県協会）、▼130kg 級 奈

良英則（警視庁）

◇全日本大学グレコローマン選手権（11月16～17日、東京・駒沢屋内球技場）

《優勝者》▼48kg級 森下浩（日体大）、▼52kg級 朝比奈巖（日体大）、▼57kg級 入江格（国士舘大）、▼62kg級 橋爪幸彦（日体大）、▼68kg級 田橋治（日体大）、▼74kg級 名倉昌輝（山梨学院大）、▼82kg級 浅井努（日体大）、▼90kg級 藤田和之（日大）、▼100kg級 鈴木文雄（山梨学院大）、▼130kg級 茂野充宏（国士舘大）

《大学対抗得点》[1] 日体大（3年連続3度目）、[2] 国士舘大、[3] 山梨学院大

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月30日～12月1日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 福岡大（3季連続16度目）、[2] 近大、[3] 桃山学院大、[4] 徳山大、[5] 同志社大、[6] 南九州大

◇東日本学生秋季新人戦（12月19～21日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 佐藤謙二（国士舘大）、▼52kg級 余膳和宏（専大）、▼57kg級 森進一（東洋大）、▼62kg級 伊藤弘之（専大）、▼68kg級 中川浩三（東洋大）、▼74kg級 片山貴光（日体大）、▼82kg級 横山秀和（日体大）、▼90kg級 小野瀬哲也（山梨学院大）、▼100kg級 鈴木文雄（山梨学院大）、▼130kg級 茂野充宏（国士舘大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 綿引豊（国士舘大）、▼52kg級 嘉戸洋（国士舘大）、▼57kg級 佐藤順一（日大）、▼62kg級 濱田広嗣（東洋大）、▼68kg級 坂上桂一（日体大）、▼74kg級 片山貴光（日体大）、▼82kg級 小野瀬哲也（山梨学院大）、▼90kg級 吉田幸司（日体大）、▼100kg級 千綿辰也（日体大）、▼130kg級 茂野充宏（国士舘大）

◇全日本女子オープン選手権（12月1日、東京・スポーツ会館）

《優勝者》▼44kg級 吉村祥子（スポーツ東急）、▼48kg級 上林美穂（羽島市連盟）、▼50kg級 東陽子（朝日住建）、▼53kg級 遠藤美子（東洋大）、▼57kg級 飯島晶子（京樽）、▼61kg級 星川君枝（ユニマツト）、▼65kg級 小笠原樹子（リプレ中京女大）、▼70kg級 浦野弥生（京樽）、▼75kg級 船越光子（栃木・壬生高）、▼75kg以上級 上野弘子（盛岡大）

◇バルセロナ五輪第1次選考会（12月15～17日、茨城・高萩大心苑）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 入江隆（自衛隊）、▼52kg級 笹山秀雄（自

衛隊)、▼57kg級 奥山恵二(山形・山形南高教)、▼62kg級 栄和人(京樽)、▼68kg級 吉本収(国士舘大)、▼74kg級 原喜彦(新潟・新潟北高教)、▼82kg級 石沢常光(新日本プロレス職)、▼90kg級 太田章(早大教)、▼100kg級 中西学(新日本プロレス職)、▼130kg級 小幡弘之(警視庁)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 佐々木昌常(自衛隊)、▼52kg級 清水光二(山形県競技力向上本部)、▼57kg級 花原大介(日体大)、▼62kg級 栗本秀樹(日体大)、▼68kg級 森巧(自衛隊)、▼74kg級 湯浅邦茂(山梨・甲府養護学教)、▼82kg級 田崎光之(自衛隊)、▼90kg級 東出徹(奈良・高取高教)、▼100kg級 近藤務(自衛隊)、▼130kg級 鈴木賢一(読売千葉広告社)